第○学年　道徳科学習指導案

以下①から④を活用して指導案を作成すること　(※各テキストボックスは確認後に削除してください)①小学校/中学校学習指導要領解説　　文部科学省
②道徳教育パンフレット　　沖縄県教育庁義務教育課
③「自立した学習者」育成プロジェクト　　沖縄県教育庁義務教育課
④生徒指導提要　　文部科学省
※その他:「問い」が生まれる授業サポートガイド　　沖縄県教育委員会

【年間指導計画　　学年　　月計画】

1　主題名「　　」　内容項目○［　　］　（例）B［友情、信頼］

主題名は教師の思いが込められた授業のテーマ、児童生徒にとっては学びの指針となるもの。
ねらいを焦点化できるような簡潔な表現にする。
ねらいを焦点化できるような簡潔な表現とする。

2　教材名「　　」　出典（　　）

出版元や書名等を明確にする。読み物資料以外の資料の場合でも出典を示す。

3　指導観

(1) 価値観

ねらいとする道徳的価値の捉えや考え方を学習指導要領に基づき記述する。
授業で扱う内容項目を授業者自身が深く理解する。また、発達の段階や指導の系統性を理解する。
(学習指導要領解説 特別の教科 道徳編　小学校:P22～71　中学校:P19～69　参照)

(2) 児童/生徒観

ねらいとする道徳的価値に対して、道徳科の時間やそれ以外の教育活動でどのような指導を行ってきたか、その結果、児童生徒がどのような実態(よさや可能性、課題)にあるのか記述する。実態を整理し、本時でどのように考え、何を学ばせたいのか明らかにする。

(3) 教材観

価値観や児童/生徒観を基に、教材の活用の仕方を記述する。
教材のあらすじの紹介のみで終わらない。教材をどのように捉え、どのように扱うかを記述する。

4　本時の指導

(1) ねらい

指導の明確な意図が読み取れるよう記述する。文末表現については、道徳性を構成するどの諸様相(道徳的判断力・道徳的心情・道徳的実践意欲と態度)に重点があるのかを明確にする。
(例)「～を考えることをとおして(学習活動)、～に気づき(道徳的価値)、～(道徳性の様相)を育てる/高める。」

(2) 授業の工夫

ねらいに迫るための手立てや工夫した指導法について具体的に示す。(例)「～の場面において、～する(手立て、方法)」
・教材提示　・発問　・ICTの効果的な活用　・書く活動　・表現活動　・説話　等

(3) 展開

段階	学習活動	主な発問	予想される児童/生徒の 反応や心の動き	◆指導上の留意点 ◎評価
導入 (分)	価値への方向付けを図る。主題に対する児童/生徒の興味や関心を高め学習意欲を喚起して、道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る。			◆指導上の留意点 次のような留意点を 必要に応じて記載する。 □資料提示 □発問 □話合い □書く活動 □動作化・役割演技等 表現活動 □板書の工夫 □ICT活用　等
展開 (分)	教材を通して、道徳的価値の理解を図る。 中心発問やその前後の補助発問等、それに対する予想される児童/生徒の反応や心の動きをできるだけ具体的イ記述する。中心発問はロで囲む。 教材から離れ、自分のこととして道徳的価値を捉える。			
終末 (分)	学習活動を通して、ねらいとする道徳的価値について考えたことなどを振り返る。			

(4) 評価

学習過程の中で期待する子どもの姿(児童生徒の活動に着目する)を記載する。
(学習指導要領解説 特別の教科 道徳編　小学校:P109～116　中学校:P111～118　参照)

(5) 板書計画

5　参考文献